

平成27年度 市長とランチでトーク 一般編

「市長とランチでトーク」は、市政をより身近に感じてもらい理解を深めてもらうことを目的として実施するものです。

今回は、「一般編」として実施し、「宇都宮市民大学」の講座の企画・運営に携わる団体である「ともしび」の5名が参加し、昼食をとりながら市長と懇談しました。

- 開催日 平成27年10月29日（木） 12:00～13:00
- 出席者 〈参加者〉 「ともしび」 5名
〈市側〉 市長

● 主な懇談の内容（抜粋）

参加者： まず、私たちの活動について簡単にご説明いたします。私たちの活動は、生涯学習コーディネーター養成講座を受講したことから始まりました。本日は欠席しておりますが、当初からグループの中心として活動しているメンバーの中には、80代の女性もおります。自分たちの企画した講座が市民の皆さんに楽しんでもらえることは、私達の元気のもとになっています。ともしびの活動は生きがいであり、やりがいのある活動です。

生涯学習コーディネーター養成講座を修了したあとは、修了生が独自のグループを作り、活動をしているところもあります。

若い世代の参加率が低いなど、課題はいくつかありますが、頑張って活動しています。

市長： 企画の難しさはどんなところですか。

参加者： たくさんの講座をバランスよく企画すると良いと考えていますが、私達が企画する市民大学の講座は地域密着型の生涯学習センター講座と比べ、レベルが高い内容が求められています。また、市民大学は有料講座なので、市民ニーズに合っているものを企画しなければなりません。

市長： 受講するよりも、講座を企画する方が大変ですね。

参加者： 大変ですがやりがいを感じています。企画する時には、市民の方がどんな講座を受けたいのかを常に意識するようにしています。

受講者の傾向ですが、若い世代のママさんたちのために子育てに関する内容を企画しても、時間や費用のことでなかなか参加が難しくなっています。また、シニア世代に人気がある健康や仏像に関する講座は毎回申込が多く、抽選で参加者を決めることもあります。

市長： 仏像めぐりは、徒歩で行うのですか。

参加者： バスで行きます。個人で訪ねても見られない秘仏を見ることもあります。

- 市長： 外出することはとてもいいことであり、健康寿命を延ばすことにつながります。生きがいがあることはとても重要です。皆さんのように、継続して活動することはとても大変ですが素晴らしいことです。
- 参加者： 講座の受講者は5、6年前くらいまで、圧倒的に女性が多く見られました。ところが最近では、団塊の世代の男性たちの受講者も目につきます。
- 生涯学習は生涯を通して学びを続けるという意味だと考えています。そして公民館活動は、自分のことばかり考えるのではなく、公の中の自分を自覚する必要があります。生涯学習センターや公民館においては趣味講座も必要ですが、一市民として地域において何ができるか、どういう生き方をすべきか、という内容の講座も必要だと思います。歩いていける距離の公民館で、地域の人との交流を図れば、地域活動がさらに活発になると思います。
- 市長： 地域が団結すれば、災害などの非常時にも安全・安心につながります。そのために、生涯学習がうまく組み合わせることができれば素晴らしいと思います。
- 参加者： 公民館が、「サロン」のような存在になるといいですね。
- 市長： 既に、近所の方が気軽にお茶飲みに来られるようなサロンがいくつかある地域もあります。そういう場所で、気軽に講座を受けられるような機会があるといいですね。
- 参加者： それぞれ、地域ごとにニーズがありますから、地域の実情に応じた活動ができるといいと思います。
- 参加者： 親と子のサロンはよく見かけますが、そこでおじいちゃんやおばあちゃんなど様々な世代の人が交流できるようになると、もっと良くなりますね。おばあちゃん世代の人が、子育てに悩んでいる若いお母さんにさりげなくアドバイスできるような、そういう交流が図れるといいと思います。
- 市長： 「小中一貫教育・地域学校園」という取組を行っていますが、「魅力ある学校づくり地域協議会」という学校ごとの教育活動を支援する地域の団体があります。知識と経験の豊かな地域の祖父母世代の方が、孫世代の子どもたちやその保護者にいろいろなことを伝えて欲しい、という思いから始まった事業です。
- 参加者： ところで、「住めば愉快だ」のロゴマークは、いろいろな企業でも使われていますね。
- 市長： 現在、500以上のロゴマークを作成していただいています。
- 参加者： 今後、人口減少となりますから、宇都宮市がいかに住みやすい都市かをPRして住む人を増やしていくことが重要ですね。
- 参加者： 生まれてからずっと宇都宮に住んでいると、宇都宮の良さを意識することがあまりないですが、災害を経験した今は、宇都宮は安全安心で住みやすい都市なのだと感じました。他の都市から移り住んできた方からも、宇都宮は住みやすいところだと言われます。
- 市長： 宇都宮市は、全国の都市の中でも日照時間が長く、災害に強いまちとしては全国2位、というよい面もありますが、一方でCO2排出量が全国2位の都市でもあります。

参加者： 車に頼らないと生活が大変ですからね。

市長： これまでどおり、道路の整備などは実施しなくてははいけません、これからは、公共交通の充実を図る必要があります。民間のバス会社は、赤字路線が出て撤退してしまった都市もあります。

参加者： バス代はとて高く感じます。

市長： 赤字、黒字という面だけで考えると、いろいろなことを実行することが難しくなります。民間ではやれないこと、でも、社会や皆さんにとって必要なことがあります。例えば、道路整備、上下水道の整備など、これは我々の仕事です。しかし、どれだけのコストがかかり、皆さんに対してどれだけ利益があるか、きちんと管理していかなければなりません。バスが走りやすい環境をつくるためにも、公共交通をもっと充実させていく必要があります。

参加者： LRTについては、路線の距離を延伸してほしいです。今の計画のままだと、特定の企業のためのものになってしまう気がします。通勤時の混雑・渋滞緩和のためだけでなく、日中、どのような人がどのように利用するか、そういう視点も必要だと思います。

市長： 行政主導で、新たに陽南方面のバス路線を新設しました。通勤に便利とのことで、サラリーマンの方などにご好評いただいているようです。

参加者： 私たちが、ボランティア活動をはじめた頃、宇都宮についてもっと学ぼうという企画もありました。

市長： 例えば、宇都宮の歴史を学ぶような講座については、皆さんが自分たちで歴史のことを調べるのですか。

参加者： まずは講師を探しますが、なかなか大変です。

参加者： 最後にお願ひがあります。市民大学公開講座の講師は、生涯学習は何のために行うのかをきちんと話せる方をお願いしてもらいたいです。公開講座については、市民大学の講座を受講する方以外も参加できるので、市民大学を受けてみたい、というきっかけになってもらえるよう、あの先生なら自分も話を聞きたい、と多くの市民に思われるような方に講師をお願いしてもらいたいです。また、市長にも、是非来ていただけると幸いです。

● 懇談の様子

